

北海道のお菓子メーカーが若手社員の農業研修を実施 コロナ禍における北海道農業の活性化に貢献！

石屋製菓株式会社(札幌市)



【太陽の下でミニトマトの収穫を楽しむ研修生】

【組織等の概要】

- 業種 : 菓子製造・販売
- 代表者 : 代表取締役社長 石水 創
- 社員数 : 784名
- 主な商品 : 白い恋人、美冬、白いバウムなど
- 連絡先TEL : 011-666-1483
- URL : <http://www.ishiya.co.jp/>

【取組の成果】

- コミュニケーション能力の向上や、商品開発に積極的に関わるようになるなど、研修前との行動に差が見られるようになった。
- 1次産業に触れることで、命あるものから食料をいただける大切さや農家に対する感謝を学んだ。
- 農作業の空き時間を活用した農業法人の講義やGGAPの現地監査の視察は、今後の業務における応用や新たな発見にも繋がった。
- TV局の取材や知事の訪問があり、農業との異業種間連携のPRに繋がった。

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 新型コロナウイルスの影響により、白い恋人パーク及び工場の休業を余儀なくされる中、業務ができない時間を社員教育に活かすため、若手社員の農業研修を企画。
- ◆ 北海道農業法人協会に農業研修の受入れ農家の選定を依頼し、令和2年6月から10月までの間、道内10カ所の農業法人において、30歳未満の社員約100人が1ヶ月交替で研修を実施。
- ◆ 野菜や畑作物の播種から収穫作業の補助、酪農現場での給餌、搾乳作業などに取り組んだ。

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 農家へ通う研修生のフォロー。
⇒ 自家用車を所有していない研修生には、研修に参加しない社員が農家への送迎を担当。
- 宿泊場所や作業が身体に合わない、虫が苦手など研修生からの悩み相談への対応。
⇒ 人事担当者が農業者と話し合ったり、研修生には慣れてもらうよう説得する等、研修生と速やかに連絡が取れる体制を作った。



【たまねぎの収穫作業機の前で】

【今後の展望】

- 2年前に設立した農業生産法人「北海道150年ファーム」を活用し、このような研修を通じて北海道農業の価値を高めていきたい。
- 1次産業を推進するため、農業研修は来年も継続して社員教育に活かしたい。



【農作業に励む研修生たち】